

令和6年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長	定宗 由里	生徒指導主事	佐々木 翼
取組事例名	『あいさつFestival』 全3弾				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
<p>本校児童の課題である「挨拶」に関して、児童会を中心に改善に向けた取組を考えたり、他の委員会等への協力を要請したりすることを通して、課題解決に向けて、進んで取り組もうとする主体性の高まりを狙う。また、これらの取組の中で、様々な児童と触れ合う場を意図的に設けることで、児童間の絆づくりを進め、自己肯定感や集団への帰属感の向上へとつなげる。</p>	<p>「自ら考え課題解決する力」「共に学びをつなげる力」「自己を見つめ調整する力」をバランスよく備えた児童。 3つの力が身に付くことで、成功体験も増え、自己肯定感が高まり、次へのステップ（さらなるチャレンジ）につながると考える。</p>



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
<p>○自分たちの生活を振り返り、課題を見出すとともに、理想の学校像についてイメージやアイデアを出し合う。</p> <p>①あいさつBINGO 初めは個人で取り組んだ。低学年が意欲的に取り組んだ反面、高学年の参加が少ないという結果となった。執行部で取組を振り返り、学級単位で実施すると協力して挨拶の大切さを実感できるのではないかと考え、2度目は学級単位で実施することとした。</p> <p>②あいさつキャラクター 全校児童にあいさつキャラクターの案を募集した。集まった42案から、より挨拶の大切さ等が伝わるもの12案に絞り、投票を行った。応募者全員に参加賞状を、上位3案に選ばれた児童には、表彰状を渡した。この3案については、通信などの広報活動に使用している。</p> <p>③あいさつ標語 誰もが参加できるためには、国語科等で日頃から親しんでいる作句活動を季節の行事と関連させて取り組んではどうかと執行部で協議を行い、「あいさつ標語をたくさん作って鬼を追い出そう」と題うち、取組を計画した。</p> <p>○振り返りと新執行部への引継ぎ 今後、新執行部役員を受け、成果と課題、取組や行事などについて新旧役員で引継ぎを行う。(2月下旬～3月上旬)</p>	<p>児童にめあてをもたせるために 「なぜ挨拶が必要なのか」など、挨拶の意義や目的を考えさせることで目的意識を持たせた。また、個人や学級に配った用紙には、自分たち(学級)の課題をビンゴの中心に設定する等、より自分事として取り組む工夫を行った。</p> <p>児童の意欲を高めるために 表彰状やスタンプ等、取り組んだ成果をすぐに児童に返せるようにしたり、執行部に途中経過を集計させたりするなど、自分たちの取組の現状をリアルタイムで認識できる形とした。</p> <p>児童の頑張り認め、価値付けるために 活動途中、定期的に振り返りを行い、多くの教職員が意図的に評価し、自分たちの取組に対して自信を持たせた。また、課題が明らかになった際も、自分たちで解決策を考えたり、教職員からアドバイスを受けたりするなど、次の活動に向けて試行錯誤を重ねることで、より良いものへと変化していった。</p>



3 成果と課題

<p>児童会目標を柱に各委員会で様々なアイデアを出し合い、誰もが楽しみながら、課題解決のために取り組んでいこうとする児童が増えた。また、活動の意義や目的をはっきりとさせようとする姿も見られるようになった。これらの成長を個人のものだけでなく、集団全体へ広げていくことが次の目標である。</p> <p>「学校楽しい」との自己肯定感の項目において、肯定的な回答をした児童の割合は、1回目76.2%、2回目74.9%であった。(3回目は2月上旬実施予定である。)肯定的評価の全体の割合としては微減したが、「とても思う」の割合が増加し、「そう思わない」の割合が減少する等、集団としての高まりは見られた。一方で、個に応じたサポート支援の面でさらなる工夫や取組が必要である。</p>
--